

ゲリラ豪雨、竜巻、台風など、自然の猛威は凄まじい。人間とはなんと はかないものだろうと、再認識する日々。猛暑は9月に入っておちつくかにみえましたが、10月の残暑！季節は行きつ戻りつです。2020年に東京でオリンピックが開催されることになりました。前回1964年は、私が小学校2年生の時でした。東洋の魔女と言われた女子バレーボールや男子体操が金メダルを獲り、マラソンの円谷が銅メダル。幼いながらも、今も記憶にはっきりと残っています。7年後のオリンピックを目指して、心をときめかしているアスリートたちも多いことでしょう。それを見るだろう私たちも、早くもワクワクしています。いろいろな問題が山積していますが、夢と希望を持って頑張っていきましょう。さて、秋の空気は澄み切って、1年で最も清潔感があり美しい季節です。しっかりと体力をつけて、来たるべき厳しい冬に備えたいものです。



【最近目立つ病気】

手足口病は漸く少なくなってきました。今年のウィルス型はコクサッキーA6型が主流で、ヘルパンギーナの原因ウィルスでもあります。実際、ヘルパンギーナの診断後、翌日に手足口病と診断名を変更したケースが少なからずありました。また、CoxA6による手足口病は発疹の出方が典型的ではありませんでした。典型的な手足口病と比べて、水疱が大きく部位も四肢だけでなく体幹に出現するため、水ぼうそうやカポジ水痘様発疹症（単純ヘルペス感染症）と、非常に紛らわしいものがありました。発疹が多く出たケースで、治癒後1ヶ月ほどしてから爪が剥がれていく症状が時々みられました。

RSウィルス感染症は、以前は寒い季節にはやりましたが、最近是一年の中流行がみられます。今年も夏から流行中です。乳幼児に細気管支炎を起こし重症化しやすい感染症です。

涼しくなってきた、例年のようにウィルス性胃腸炎がみられています。その中にノロウィルス感染症があり、流行の兆しが既にあります。春先に流行するロタウィルス胃腸炎とは異なり、成人でも重症化することがあります。

【RSウィルス感染症】

RSウィルスは生涯繰り返し感染し、1才までに半数以上が、2才までにほぼ全員が一度は感染します。初感染時が最も重くなりやすく、乳児期早期（生後数週間～数ヶ月間）に感染した場合は、細気管支炎や肺炎といった重篤な症状が起こりやすいです。

もともと寒い時期に多い感染症でしたが、2年前くらいから季節性がみられなくなり、夏でも流行が起こるようになりました。

感染様式は飛沫感染、接触感染によるもので家族内感染や保育所内での感染がほとんどです。成人が感染しても軽い鼻風邪程度のこともありませんが、乳児にとっては怖いウィルスですので、マスクの着用等の注意が必要です。

潜伏期間は数日で、鼻汁・咳から

はじまり、重症化する場合は喘鳴（喘息のような症状）・呼吸困難へと進展していきます。低出生体重児や心・肺に基礎疾患があったり、神経・筋疾患、免疫不全を持っている児は重症化の可能性が高いです。生後1ヶ月未満の児が感染した場合は突然死につながる無呼吸発作（突然に呼吸が止まる）を起こすことがあり入院治療が必要です。年長児や成人での再感染は、軽症のことがほとんどです。しかし、免疫力の落ちた高齢者では再び重症化しやすくなり、高齢者の長期療養施設内での集団感染が問題となったりしています。

治療法は対症療法のみです。ワクチンはありません。特定のハイリスク児にはパリビズマブ（商品名：シナジス）というモノクローナル抗体製剤の筋肉注射が保険適応となっています。



【ノロウィルス感染症】

秋になると流行するウィルス性胃腸炎の代表がノロウィルス感染症です。ノロウィルスが、寒くなると流行する理由は、ノロウィルスは低温になるほど長期間生存し、乾燥にも強いことと、寒くなると牡蠣などの二枚貝を生食する機会が増えるためです。

ノロウィルスには多数の遺伝子型が存在する上に、免疫の持続が短く、何度も繰り返し感染します。おとなでも重症になることが珍しくありません。

治療法は対症療法しかありませんので、予防が大切です。ワクチンはありません。手洗い、うがいが基本です。しっかりと加熱（85℃、1分間以上）したものを食べることで、嘔吐物や下痢便の処理はマスク、手袋をして衣服につかないように慎重に行ってください。消毒は次亜塩素酸ナトリウムで行い、衣類・調理器具の消毒には0.02%溶液、嘔吐物・糞便の処理には0.1%溶液を使います。

ノロウィルスの診断は抗原の迅速

診断が出来ますが、保険適応は3才未満と65才以上です。その中間の年齢では特定の免疫不全状態の方のみ適応となります。どうしても検査を希望される方は保険外で¥3000の自己負担となります。



【ワクチン最新事情】

平成25年11月1日から小児用肺炎球菌ワクチンの内容が変更されます。肺炎球菌には90種類以上の血清型が確認されています。これまでの小児用肺炎球菌ワクチンは7種類の血清型を含む7価ワクチンでしたが、11月1日以降に使用されるものは6種類が追加されて13価となります。これにより、さらに多くの肺炎球菌感染症が予防可能になります。あと1回の追加接種を残すのみの方は11月1日まで待たれてもよいと思います。初回接種途中の方は待つことなく、スケジュールどおり接種してください。他に、成人用にニューモバックスNPという23価の肺炎球菌ワクチンがありますが、製法が異なっており、2才未満の小児には免疫をつけることが出来ません。



☆大手町の夜間急病診療所（Tel:222-0099）では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は10/20・11/10・12/5・12/22・1/5の予定です。また、1/13は当番医です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン（水痘・おたふくかぜ・インフルエンザ）についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆10月15日からインフルエンザワクチン接種を開始しています。任意接種で費用は1回目¥3000、2回目¥2500です。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

